

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	名古屋医健スポーツ専門学校
設置者名	学校法人 滋慶コミュニケーションアート

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
医療専門課程	柔道整復科 (昼間Ⅰ部)	夜・通信	2,445 時間	240 時間	
	柔道整復科 (昼間Ⅱ部)	夜・通信	2,445 時間	240 時間	
	鍼灸科 (昼間Ⅰ部)	夜・通信	2,205 時間	240 時間	
	理学療法科 (昼間Ⅰ部)	夜・通信	3,075 時間	240 時間	
	作業療法科 (昼間Ⅰ部)	夜・通信	3,210 時間	240 時間	
	歯科衛生科 (昼間Ⅰ部)	夜・通信	2,565 時間	240 時間	
文化・教養専門課程	スポーツ科学科 (昼間Ⅰ部)	夜・通信	2,670 時間	160 時間	
	スポーツ科学科 (昼間Ⅱ部)	夜・通信	2,670 時間	160 時間	
	スポーツマネジメントテクノロジー科 (昼間Ⅰ部)	夜・通信	2,760 時間	320 時間	
	こども保育科 (昼間Ⅰ部)	夜・通信	2,140 時間	240 時間	
衛生専門課程	食健康テクノロジー科 (昼間Ⅰ部)	夜・通信	2,700 時間	240 時間	
	農芸テクノロジー科 (昼間Ⅰ部)	夜・通信	3,600 時間	320 時間	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<a href="https://www.nagoya-iken.ac.jp/school/public_info.html">https://www.nagoya-iken.ac.jp/school/public_info.html</a>
---

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	名古屋医健スポーツ専門学校
設置者名	学校法人 滋慶コミュニケーションアート

1. 理事（役員）名簿の公表方法

[https://www.nagoya-iken.ac.jp/school/public\\_info.html](https://www.nagoya-iken.ac.jp/school/public_info.html)

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	株式会社 取締役会長	2023. 4. 1 ~ 2026. 3. 31	地域との連携
非常勤	株式会社 代表取締役	2023. 4. 1 ~ 2026. 3. 31	経営分析
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	名古屋医健スポーツ専門学校
設置者名	学校法人 滋慶コミュニケーションアート

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>授業計画は、養成目的と到達目標を鑑み毎年見直しを図っている。見直しにあたっての基準として社会ニーズの変化や年2回開催される教育課程編成委員会の意見等を参考にしている。学生には授業計画を4月にまとめて公表している。</p>	
授業計画書の公表方法	<p><a href="https://www.nagoya-iken.ac.jp/school/public_info.html">https://www.nagoya-iken.ac.jp/school/public_info.html</a></p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>全学科、定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により学修成果の評価を行ない、単位認定している。</p>	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>既に全学科 GPA での成績評価基準を用いて、下位 4 分の 1 の学生を割り出している。</p> <p>評価基準は下記の通り</p> <p>出席時数 3 分の 2 以上、評価点数 100～90 点 : S(4.0) 合格</p> <p>出席時数 3 分の 2 以上、評価点数 89～80 点 : A(3.0) 合格</p> <p>出席時数 3 分の 2 以上、評価点数 79～70 点 : B(2.0) 合格</p> <p>出席時数 3 分の 2 以上、評価点数 69～60 点 : C(1.0) 合格</p> <p>出席時数 3 分の 2 以上、評価点数 59～0 点 : F(0.0) 不合格</p> <p>上記の指標を学生便覧にて学生に公表。</p>	
客観的な指標の算出方法の公表方法	<a href="https://www.nagoya-iken.ac.jp/school/public_info.html">https://www.nagoya-iken.ac.jp/school/public_info.html</a>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>当該学年において、履修すべき学科目のうち、履修を、認定されない学科目（不合格）が 1 科目以上あれば、原則進級・卒業できない。</p> <p>所定の授業日数の 3 分の 1 以上欠席した者は、進級又は卒業することができない。</p> <p>ただし、各学年において欠席日数が出席すべき日数の 3 分の 1 以内であっても、各学科目及び実習にかかる出席時間数が所定の時間に満たない者は、補習を受けなければ進級又は卒業することができない。</p> <p>学校長が授業科目の成績評価及び卒業判定会議の審議の基づき、課程修了の認定を行う。</p>	
卒業の認定に関する方針の公表方法	<a href="https://www.nagoya-iken.ac.jp/school/public_info.html">https://www.nagoya-iken.ac.jp/school/public_info.html</a>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	名古屋医健スポーツ専門学校
設置者名	学校法人 滋慶コミュニケーションアート

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	<a href="https://www.nagoya-iken.ac.jp/school/public_info.html">https://www.nagoya-iken.ac.jp/school/public_info.html</a>
収支計算書又は損益計算書	<a href="https://www.nagoya-iken.ac.jp/school/public_info.html">https://www.nagoya-iken.ac.jp/school/public_info.html</a>
財産目録	<a href="https://www.nagoya-iken.ac.jp/school/public_info.html">https://www.nagoya-iken.ac.jp/school/public_info.html</a>
事業報告書	<a href="https://www.nagoya-iken.ac.jp/school/public_info.html">https://www.nagoya-iken.ac.jp/school/public_info.html</a>
監事による監査報告（書）	<a href="https://www.nagoya-iken.ac.jp/school/public_info.html">https://www.nagoya-iken.ac.jp/school/public_info.html</a>

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	柔道整復科 (昼間I部)	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2,775 単位時間	2,040 単位時間	90 単位時間	180 単位時間	0 単位時間	465 単位時間
		2,775 単位時間					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
90人		86人	0人	9人	21人	30人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 授業計画は、養成目的と到達目標を鑑み毎年見直しを図っている。見直しにあたっての基準として社会ニーズの変化や年2回開催される教育課程編成委員会の意見等を参考にしている。学生には授業計画を4月に公表している。
成績評価の基準・方法
（概要） 全学科、定期試験（実技、筆記、レポート等）の成績により学修成果の評価を行ない、単位認定している。
卒業・進級の認定基準

<p>(概要)</p> <p>当該学年において、履修すべき学科目のうち、履修を、認定されない学科目（不合格）が1科目以上あれば、原則進級・卒業できない。</p> <p>所定の授業日数の3分の1以上欠席した者は、進級又は卒業することができない。</p> <p>ただし、各学年において欠席日数が出席すべき日数の3分の1以内であっても、各学科目及び実習にかかる出席時間数が所定の時間に満たない者は、補習を受けなければ進級又は卒業することができない。</p> <p>学校長が授業科目の成績評価及び卒業判定会議の審議の基づき、課程修了の認定を行う。</p>
学修支援等
<p>(概要)</p> <p>出席管理システムを使用し、担任を中心に出席状況を把握する。長欠者に対しては、担任だけでなく、専門のスクールカウンセラーを含めたスチューデント・サービス・センター（SSC）を開設し全職員で対応している。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
23人 (100%)	0人 (0%)	14人 (60.9%)	9人 (39.1%)
(主な就職、業界等) 接骨院、病院、健康増進施設、スポーツ施設 等			
(就職指導内容) 合同企業説明会の開催、履歴書等書類作成指導、面接練習指導			
(主な学修成果（資格・検定等）) 柔道整復師			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
96人	15人	15.6%
(中途退学の主な理由) 意欲の低下、進路変更、経済的理由		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任制、個別補講の実施、保護者との連携、スクールカウンセラーによる面談		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
医療	医療専門課程	柔道整復科 (昼間Ⅱ部)	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2,775 単位時間	2,040 単位時間	90 単位時間	180 単位時間	0 単位時間	465 単位時間
			2,775 単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
90人	88人	0人	9人	21人	30人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 授業計画は、養成目的と到達目標を鑑み毎年見直しを図っている。見直しにあたっての基準として社会ニーズの変化や年2回開催される教育課程編成委員会の意見等を参考にしている。学生には授業計画を4月に公表している。
成績評価の基準・方法
(概要) 全学科、定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により学修成果の評価を行ない、単位認定している。
卒業・進級の認定基準
(概要) 当該学年において、履修すべき学科目のうち、履修を、認定されない学科目(不合格)が1科目以上あれば、原則進級・卒業できない。 所定の授業日数の3分の1以上欠席した者は、進級又は卒業することができない。 ただし、各学年において欠席日数が出席すべき日数の3分の1以内であっても、各学科目及び実習にかかる出席時間数が所定の時間に満たない者は、補習を受けなければ進級又は卒業することができない。 学校長が授業科目の成績評価及び卒業判定会議の審議の基づき、課程修了の認定を行う。
学修支援等
(概要) 出席管理システムを使用し、担任を中心に出席状況を把握する。長欠者に対しては、担任だけでなく、専門のスクールカウンセラーを含めたスチューデント・サービス・センター(SSC)を開設し全職員で対応している。

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
19人 (100%)	0人 (0%)	15人 (78.9%)	4人 (21.1%)
(主な就職、業界等) 接骨院、病院、健康増進施設、スポーツ施設 等			



(就職指導内容) 合同企業説明会の開催、履歴書等書類作成指導、面接練習指導
(主な学修成果(資格・検定等)) 柔道整復師
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
89人	9人	10.1%
(中途退学の主な理由) 意欲の低下、進路変更、経済的理由		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任制、個別補講の実施、保護者との連携、スクールカウンセラーによる面談		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
医療	医療専門課程	鍼灸科 (昼間I部)	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2,715 単位時間	2,055 単位時間	0 単位時間	240 単位時間	0 単位時間	420 単位時間
			2,715 単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
90人	75人	0人	7人	11人	18人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 授業計画は、養成目的と到達目標を鑑み毎年見直しを図っている。見直しにあたっての基準として社会ニーズの変化や年2回開催される教育課程編成委員会の意見等を参考にしている。学生には授業計画を4月に公表している。
成績評価の基準・方法
(概要) 全学科、定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により学修成果の評価を行ない、単位認定している。
卒業・進級の認定基準
(概要) 当該学年において、履修すべき学科目のうち、履修を、認定されない学科目(不合格)が1科目以上あれば、原則進級・卒業できない。 所定の授業日数の3分の1以上欠席した者は、進級又は卒業することができない。 ただし、各学年において欠席日数が出席すべき日数の3分の1以内であっても、各学科目及び実習にかかる出席時間数が所定の時間に満たない者は、補習を受けなければ進級又は卒業することができない。 学校長が授業科目の成績評価及び卒業判定会議の審議の基づき、課程修了の認定を行う。
学修支援等
(概要) 出席管理システムを使用し、担任を中心に出席状況を把握する。長欠者に対しては、担任だけでなく、専門のスクールカウンセラーを含めたスチューデント・サービス・センター(SSC)を開設し全職員で対応している。

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
29人 (100%)	0人 (%)	15人 (51.7%)	14人 (48.3%)
(主な就職、業界等) 鍼灸院、病院、高齢者福祉施設、健康増進施設、スポーツ施設、美容関連施設 等			

(就職指導内容) 合同企業説明会の開催、履歴書等書類作成指導、面接練習指導
(主な学修成果(資格・検定等)) はり師・きゅう師
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
85人	7人	8.2%
(中途退学の主な理由) 意欲の低下、進路変更、経済的理由		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任制、個別補講の実施、保護者との連携、スクールカウンセラーによる面談		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
医療	医療専門課程	理学療法科 (昼間I部)	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	3,120 単位時間	1,710 単位時間	240 単位時間	1,170 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			3,120 単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
120人	116人	0人	5人	36人	41人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 授業計画は、養成目的と到達目標を鑑み毎年見直しを図っている。見直しにあたっての基準として社会ニーズの変化や年2回開催される教育課程編成委員会の意見等を参考にしている。学生には授業計画を4月に公表している。
成績評価の基準・方法
(概要) 全学科、定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により学修成果の評価を行ない、単位認定している。
卒業・進級の認定基準
(概要) 当該学年において、履修すべき学科目のうち、履修を、認定されない学科目(不合格)が1科目以上あれば、原則進級・卒業できない。 所定の授業日数の3分の1以上欠席した者は、進級又は卒業することができない。 ただし、各学年において欠席日数が出席すべき日数の3分の1以内であっても、各学科目及び実習にかかる出席時間数が所定の時間に満たない者は、補習を受けなければ進級又は卒業することができない。 学校長が授業科目の成績評価及び卒業判定会議の審議の基づき、課程修了の認定を行う。
学修支援等
(概要) 出席管理システムを使用し、担任を中心に出席状況を把握する。長欠者に対しては、担任だけでなく、専門のスクールカウンセラーを含めたスチューデント・サービス・センター(SSC)を開設し全職員で対応している。

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
30人 (100%)	0人 (0%)	27人 (90%)	3人 (10%)
(主な就職、業界等) 病院、高齢者福祉施設 等			

(就職指導内容) 合同企業説明会の開催、履歴書等書類作成指導、面接練習指導
(主な学修成果(資格・検定等)) 理学療法士
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
121 人	12 人	9.9%
(中途退学の主な理由) 意欲の低下、進路変更、経済的理由		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任制、個別補講の実施、保護者との連携、スクールカウンセラーによる面談		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
医療	医療専門課程	作業療法科 (昼間I部)	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	3,210 単位時間	1,275 単位時間	450 単位時間	1,485 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			3,210 単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
120人	85人	0人	6人	23人	29人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 授業計画は、養成目的と到達目標を鑑み毎年見直しを図っている。見直しにあたっての基準として社会ニーズの変化や年2回開催される教育課程編成委員会の意見等を参考にしている。学生には授業計画を4月に公表している。
成績評価の基準・方法
(概要) 全学科、定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により学修成果の評価を行ない、単位認定している。
卒業・進級の認定基準
(概要) 当該学年において、履修すべき学科目のうち、履修を、認定されない学科目(不合格)が1科目以上あれば、原則進級・卒業できない。 所定の授業日数の3分の1以上欠席した者は、進級又は卒業することができない。 ただし、各学年において欠席日数が出席すべき日数の3分の1以内であっても、各学科目及び実習にかかる出席時間数が所定の時間に満たない者は、補習を受けなければ進級又は卒業することができない。 学校長が授業科目の成績評価及び卒業判定会議の審議の基づき、課程修了の認定を行う。
学修支援等
(概要) 出席管理システムを使用し、担任を中心に出席状況を把握する。長欠者に対しては、担任だけでなく、専門のスクールカウンセラーを含めたスチューデント・サービス・センター(SSC)を開設し全職員で対応している。

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
10人 (100%)	0人 (0%)	6人 (60%)	4人 (40%)
(主な就職、業界等) 病院、高齢者福祉施設 等			

(就職指導内容) 合同企業説明会の開催、履歴書等書類作成指導、面接練習指導
(主な学修成果(資格・検定等)) 作業療法士
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
81人	8人	9.9%
(中途退学の主な理由) 意欲の低下、進路変更、経済的理由		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任制、個別補講の実施、保護者との連携、スクールカウンセラーによる面談		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
医療	医療専門課程	歯科衛生科 (昼間I部)	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2,790 単位時間	900 単位時間	270 単位時間	900 単位時間	0 単位時間	720 単位時間
			2,790 単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
120人	112人	1人	4人	44人	48人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 授業計画は、養成目的と到達目標を鑑み毎年見直しを図っている。見直しにあたっての基準として社会ニーズの変化や年2回開催される教育課程編成委員会の意見等を参考にしている。学生には授業計画を4月に公表している。
成績評価の基準・方法
(概要) 全学科、定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により学修成果の評価を行ない、単位認定している。
卒業・進級の認定基準
(概要) 当該学年において、履修すべき学科目のうち、履修を、認定されない学科目(不合格)が1科目以上あれば、原則進級・卒業できない。 所定の授業日数の3分の1以上欠席した者は、進級又は卒業することができない。 ただし、各学年において欠席日数が出席すべき日数の3分の1以内であっても、各学科目及び実習にかかる出席時間数が所定の時間に満たない者は、補習を受けなければ進級又は卒業することができない。 学校長が授業科目の成績評価及び卒業判定会議の審議の基づき、課程修了の認定を行う。
学修支援等
(概要) 出席管理システムを使用し、担任を中心に出席状況を把握する。長欠者に対しては、担任だけでなく、専門のスクールカウンセラーを含めたスチューデント・サービス・センター(SSC)を開設し全職員で対応している。

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
36人 (100%)	0人 (0%)	34人 (94.4%)	2人 (5.6%)
(主な就職、業界等) 歯科医院			



(就職指導内容) 合同企業説明会の開催、履歴書等書類作成指導、面接練習指導
(主な学修成果(資格・検定等)) 歯科衛生士
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
113人	3人	2.7%
(中途退学の主な理由) 意欲の低下、進路変更、経済的理由		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任制、個別補講の実施、保護者との連携、スクールカウンセラーによる面談		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化・教養	文化・教養 専門課程	スポーツ科学科 (昼間 I 部)	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	1,740 単位時間	840 単位時間	840 単位時間	60 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			1,740 単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
80 人	86 人	0 人	4 人	21 人	25 人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 授業計画は、養成目的と到達目標を鑑み毎年見直しを図っている。見直しにあたっての基準として社会ニーズの変化や年 2 回開催される教育課程編成委員会の意見等を参考にしている。学生には授業計画を 4 月に公表している。
成績評価の基準・方法
(概要) 全学科、定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により学修成果の評価を行ない、単位認定している。
卒業・進級の認定基準
(概要) 当該学年において、履修すべき学科目のうち、履修を、認定されない学科目(不合格)が 1 科目以上あれば、原則進級・卒業できない。 所定の授業日数の 3 分の 1 以上欠席した者は、進級又は卒業することができない。 ただし、各学年において欠席日数が出席すべき日数の 3 分の 1 以内であっても、各学科目及び実習にかかる出席時間数が所定の時間に満たない者は、補習を受けなければ進級又は卒業することができない。 学校長が授業科目の成績評価及び卒業判定会議の審議の基づき、課程修了の認定を行う。
学修支援等
(概要) 出席管理システムを使用し、担任を中心に出席状況を把握する。長欠者に対しては、担任だけでなく、専門のスクールカウンセラーを含めたスチューデント・サービス・センター (SSC) を開設し全職員で対応している。

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
40 人 (100%)	6 人 (15%)	33 人 (82.5%)	1 人 (2.5%)
(主な就職、業界等) スポーツジム、フィットネスクラブ、病院、接骨院、スイミングスクール 等			

(就職指導内容) 合同企業説明会の開催、履歴書等書類作成指導、面接練習指導
(主な学修成果 (資格・検定等) ) (公財)日本スポーツ協会公認 アスレティックトレーナー (公財)日本スポーツ協会公認 アシスタントマネージャー (公財)日本スポーツ協会公認 スポーツリーダー (公財)健康・体力づくり事業財団 健康運動実践指導者 全米ストレングス&コンディショニング協会 NSCA 認定パーソナルトレーナー NESTA ジャパン NESTA - PFT(パーソナルフィットネストレーナー) 日本フィットネス協会(JAFA) エアロビクダンスイストラクター
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
91 人	13 人	14.2%
(中途退学の主な理由) 意欲の低下、進路変更、経済的理由		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任制、個別補講の実施、保護者との連携、スクールカウンセラーによる面談		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化・教養	文化・教養 専門課程	スポーツ科学科 (昼間Ⅱ部)	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,740 単位時間	840 単位時間	840 単位時間	60 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			1,740 単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
80人	89人	0人	4人	21人	25人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 授業計画は、養成目的と到達目標を鑑み毎年見直しを図っている。見直しにあたっての基準として社会ニーズの変化や年2回開催される教育課程編成委員会の意見等を参考にしている。学生には授業計画を4月に公表している。
成績評価の基準・方法
(概要) 全学科、定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により学修成果の評価を行ない、単位認定している。
卒業・進級の認定基準
(概要) 当該学年において、履修すべき学科目のうち、履修を、認定されない学科目(不合格)が1科目以上あれば、原則進級・卒業できない。 所定の授業日数の3分の1以上欠席した者は、進級又は卒業することができない。 ただし、各学年において欠席日数が出席すべき日数の3分の1以内であっても、各学科目及び実習にかかる出席時間数が所定の時間に満たない者は、補習を受けなければ進級又は卒業することができない。 学校長が授業科目の成績評価及び卒業判定会議の審議の基づき、課程修了の認定を行う。
学修支援等
(概要) 出席管理システムを使用し、担任を中心に出席状況を把握する。長欠者に対しては、担任だけでなく、専門のスクールカウンセラーを含めたスチューデント・サービス・センター(SSC)を開設し全職員で対応している。

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
40人 (100%)	5人 (12.5%)	33人 (82.5%)	2人 (5%)
(主な就職、業界等) スポーツジム、フィットネスクラブ、病院、接骨院、スイミングスクール 等			

(就職指導内容) 合同企業説明会の開催、履歴書等書類作成指導、面接練習指導
(主な学修成果 (資格・検定等) ) (公財)日本スポーツ協会公認 アスレティックトレーナー (公財)日本スポーツ協会公認 アシスタントマネージャー (公財)日本スポーツ協会公認 スポーツリーダー (公財)健康・体力づくり事業財団 健康運動実践指導者 全米ストレングス&コンディショニング協会 NSCA 認定パーソナルトレーナー NESTA ジャパン NESTA - PFT(パーソナルフィットネストレーナー) 日本フィットネス協会(JAFA) エアロビックダンスインストラクター
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
89 人	7 人	7.9%
(中途退学の主な理由) 意欲の低下、進路変更、経済的理由		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任制、個別補講の実施、保護者との連携、スクールカウンセラーによる面談		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養 専門課程	スポーツマネジメン トテクノロジー科 (昼間I部)		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼	3,480 単位時間	2,220 単位時間	1,260 単位時間	0 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			3,480 単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
80人	27人	0人	4人	12人	16人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 授業計画は、養成目的と到達目標を鑑み毎年見直しを図っている。見直しにあたっての基準として社会ニーズの変化や年2回開催される教育課程編成委員会の意見等を参考にしている。学生には授業計画を4月に公表している。
成績評価の基準・方法
(概要) 全学科、定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により学修成果の評価を行ない、単位認定している。
卒業・進級の認定基準
(概要) 当該学年において、履修すべき学科目のうち、履修を、認定されない学科目(不合格)が1科目以上あれば、原則進級・卒業できない。 所定の授業日数の3分の1以上欠席した者は、進級又は卒業することができない。ただし、各学年において欠席日数が出席すべき日数の3分の1以内であっても、各学科目及び実習にかかる出席時間数が所定の時間に満たない者は、補習を受けなければ進級又は卒業することができない。 学校長が授業科目の成績評価及び卒業判定会議の審議の基づき、課程修了の認定を行う。
学修支援等
(概要) 出席管理システムを使用し、担任を中心に出席状況を把握する。長欠者に対しては、担任だけでなく、専門のスクールカウンセラーを含めたスチューデント・サービス・センター(SSC)を開設し全職員で対応している。

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(主な就職、業界等)			

(就職指導内容)
(主な学修成果 (資格・検定等) )
(備考) (任意記載事項) 2022年開設のため、卒業生はいません。

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
16人	1人	6.3%
(中途退学の主な理由) 進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任制、個別補講の実施、保護者との連携、スクールカウンセラーによる面談		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化・教養	文化・教養 専門課程	こども保育科 (昼間I部)	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2,875 単位時間	1,170 単位時間	1,305 単位時間	400 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			2,875 単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
60人	44人	0人	3人	22人	25人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 授業計画は、養成目的と到達目標を鑑み毎年見直しを図っている。見直しにあたっての基準として社会ニーズの変化や年2回開催される教育課程編成委員会の意見等を参考にしている。学生には授業計画を4月に公表している。
成績評価の基準・方法
(概要) 全学科、定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により学修成果の評価を行ない、単位認定している。
卒業・進級の認定基準
(概要) 当該学年において、履修すべき学科目のうち、履修を、認定されない学科目(不合格)が1科目以上あれば、原則進級・卒業できない。 所定の授業日数の3分の1以上欠席した者は、進級又は卒業することができない。 ただし、各学年において欠席日数が出席すべき日数の3分の1以内であっても、各学科目及び実習にかかる出席時間数が所定の時間に満たない者は、補習を受けなければ進級又は卒業することができない。 学校長が授業科目の成績評価及び卒業判定会議の審議の基づき、課程修了の認定を行う。
学修支援等
(概要) 出席管理システムを使用し、担任を中心に出席状況を把握する。長欠者に対しては、担任だけでなく、専門のスクールカウンセラーを含めたスチューデント・サービス・センター(SSC)を開設し全職員で対応している。

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
14人 (100%)	1人 (7.1%)	13人 (92.9%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 保育園、幼稚園、企業内保育園			



(就職指導内容) 合同企業説明会の開催、履歴書等書類作成指導、面接練習指導
(主な学修成果 (資格・検定等) ) 保育士資格、幼稚園教諭2種免許状、幼児体育指導者、社会福祉主事任用資格 レクリエーションインストラクター、キャンプインストラクター
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
50人	2人	4%
(中途退学の主な理由) 意欲の低下、進路変更、経済的理由		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任制、個別補講の実施、保護者との連携、スクールカウンセラーによる面談		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
衛生	衛生専門課程	食健康テクノロジー 科（昼間I部）	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2,700 単位時間	660 単位時間	2040 単位時間	0 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			2,700 単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
120人	11人	0人	3人	11人	14人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 授業計画は、養成目的と到達目標を鑑み毎年見直しを図っている。見直しにあたっての基準として社会ニーズの変化や年2回開催される教育課程編成委員会の意見等を参考にしている。学生には授業計画を4月に公表している。
成績評価の基準・方法
（概要） 全学科、定期試験（実技、筆記、レポート等）の成績により学修成果の評価を行ない、単位認定している。
卒業・進級の認定基準
（概要） 当該学年において、履修すべき学科目のうち、履修を、認定されない学科目（不合格）が1科目以上あれば、原則進級・卒業できない。 所定の授業日数の3分の1以上欠席した者は、進級又は卒業することができない。 ただし、各学年において欠席日数が出席すべき日数の3分の1以内であっても、各学科目及び実習にかかる出席時間数が所定の時間に満たない者は、補習を受けなければ進級又は卒業することができない。 学校長が授業科目の成績評価及び卒業判定会議の審議の基づき、課程修了の認定を行う。
学修支援等
（概要） 出席管理システムを使用し、担任を中心に出席状況を把握する。長欠者に対しては、担任だけでなく、専門のスクールカウンセラーを含めたスチューデント・サービス・センター（SSC）を開設し全職員で対応している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
（主な就職、業界等）			

(就職指導内容)
(主な学修成果 (資格・検定等) )
(備考) (任意記載事項) 2024年開設のため、卒業生はいません。

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
人	人	%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組)		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
衛生	衛生専門課程	農芸テクノロジー科 (昼間I部)		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼	3,600 単位時間	630 単位時間	2,970 単位時間	0 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
			3,600 単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
80人	3人	0人	3人	7人	10人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 授業計画は、養成目的と到達目標を鑑み毎年見直しを図っている。見直しにあたっての基準として社会ニーズの変化や年2回開催される教育課程編成委員会の意見等を参考にしている。学生には授業計画を4月に公表している。
成績評価の基準・方法
(概要) 全学科、定期試験(実技、筆記、レポート等)の成績により学修成果の評価を行ない、単位認定している。
卒業・進級の認定基準
(概要) 当該学年において、履修すべき学科目のうち、履修を、認定されない学科目(不合格)が1科目以上あれば、原則進級・卒業できない。 所定の授業日数の3分の1以上欠席した者は、進級又は卒業することができない。 ただし、各学年において欠席日数が出席すべき日数の3分の1以内であっても、各学科目及び実習にかかる出席時間数が所定の時間に満たない者は、補習を受けなければ進級又は卒業することができない。 学校長が授業科目の成績評価及び卒業判定会議の審議の基づき、課程修了の認定を行う。
学修支援等
(概要) 出席管理システムを使用し、担任を中心に出席状況を把握する。長欠者に対しては、担任だけでなく、専門のスクールカウンセラーを含めたスチューデント・サービス・センター(SSC)を開設し全職員で対応している。

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(主な就職、業界等)			

(就職指導内容)
(主な学修成果 (資格・検定等) )
(備考) (任意記載事項) 2024年開設のため、卒業生はいません。

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
人	人	%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組)		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
柔道整復科	250,000円	950,000円	360,000円	
鍼灸科	250,000円	900,000円	360,000円	
理学療法科	250,000円	900,000円	540,000円	
作業療法科	250,000円	900,000円	540,000円	
歯科衛生科	250,000円	650,000円	410,000円	
スポーツ科学科	100,000円	750,000円	410,000円	
スポーツマネジメント テクノロジー科	100,000円	900,000円	500,000円	
こども保育科	100,000円	550,000円	410,000円	
食健康テクノロジー科	100,000円	850,000円	550,000円	
農芸テクノロジー科	100,000円	850,000円	550,000円	
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="https://www.nagoya-iken.ac.jp/school/public_info.html">https://www.nagoya-iken.ac.jp/school/public_info.html</a>		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) 卒業生代表、保護者代表、近隣関係者、高等学校関係者ととも、業界関係者により構成される学校関係者評価委員会を組織し、この委員会が行なった自己点検、自己評価の内容を通し、学校運営の改善に活かすことを方針としている。 評価項目としては下記とする。 ・教育理念、目的、育成人材像について・学校運営について・教育活動について ・教育成果について・学生支援について・教育環境について ・学生募集と受け入れについて・財務について・法令等の遵守について ・社会貢献について		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
栄学区区政協力委員会	2024. 4. 1～2026. 3. 31	地域関係者
医療法人和光会 川島病院	2024. 4. 1～2026. 3. 31	卒業生代表
在校生保護者	2024. 4. 1～2026. 3. 31	保護者代表
愛知県立大府東高等学校	2024. 4. 1～2026. 3. 31	高等学校関係者

公益社団法人 愛知県柔道整復師会	2024. 4. 1～2026. 3. 31	業界関係者
一般社団法人 愛知県鍼灸師会	2024. 4. 1～2026. 3. 31	業界関係者
公益財団法人 愛知県スポーツ協会	2024. 4. 1～2026. 3. 31	業界関係者
公益社団法人 愛知県理学療法士会	2024. 4. 1～2026. 3. 31	業界関係者
一般社団法人 愛知県作業療法士会	2024. 4. 1～2026. 3. 31	業界関係者
公益社団法人 愛知県歯科衛生士会	2024. 4. 1～2026. 3. 31	業界関係者
公益社団法人 名古屋市私立幼稚園協会	2024. 4. 1～2026. 3. 31	業界関係者
一般社団法人 愛知県調理師会	2024. 4. 1～2026. 3. 31	業界関係者
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="https://www.nagoya-iken.ac.jp/school/public_info.html">https://www.nagoya-iken.ac.jp/school/public_info.html</a>		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) <a href="https://www.nagoya-iken.ac.jp/school/public_info.html">https://www.nagoya-iken.ac.jp/school/public_info.html</a>
--

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード (13桁)	H123310000623
学校名 (〇〇大学 等)	名古屋医健スポーツ専門学校
設置者名 (学校法人〇〇学園 等)	学校法人 滋慶コミュニケーションアート

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者 (家計急変による者を除く)		88人	87人	95人
内訳	第Ⅰ区分	53人	47人	
	第Ⅱ区分	22人	29人	
	第Ⅲ区分	13人	11人	
	第Ⅳ区分	人	人	
家計急変による支援対象者 (年間)				0人
合計 (年間)				95人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号、第4号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数



	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	0人	12人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	人	0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	人	—	0人
「警告」の区分に連続して該当	人	0人	—
計	人	—	15人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	—
3月以上の停学	0人
年間計	—
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。） 及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下)	0人	0人	0人
G P A等が下位4分の1	—	—	—
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	—	—	—
計	—	—	—
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。